

◎景気ウォッチャー調査[2021年7月]  
2021年7月の中国地域調査結果の概況

■景気の現状に対する評価

現在の景気を3か月前と比較するとその評価は次のとおりであった。

景気の現状判断D I (合計)は、前月を2.3ポイント上回る49.0となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「悪くなっている」の回答の割合が減少し、「時短営業の解消で景気は良くなっている。」(バー)等の理由から、「良くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を4.4ポイント上回る46.8となった。

企業動向関連は、「良くなっている」の回答の割合が減少し、「新型コロナウイルスや製品価格の値上げの影響で、景気はやや悪くなっている。」(食料品製造業)、「地元完成車メーカーの国内生産が低下している。通常操業は月産8万台程度だが、新型車の販売伸び悩みや半導体不足で、月産5~6万台に減産している。このため、地元部品メーカーの受注は低水準で、金曜日を工場休止する企業もある。」(金融業)等の理由から、「やや悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を2.3ポイント下回る55.1となった。

雇用関連は、「やや良くなっている」の回答の割合が減少したため、前月を2.9ポイント下回る51.5となった。

	7月	6月	前月差
合計	49.0	46.7	2.3
家計動向関連	46.8	42.4	4.4
企業動向関連	55.1	57.4	-2.3
雇用関連 (参考値)	51.5	54.4	-2.9

■景気の先行きに対する評価

現在より3か月先の景気の先行きに対する評価は次のとおりであった。

景気の先行き判断D I (合計)は、前月を2.7ポイント下回る50.0となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「やや良くなる」の回答の割合が減少し、「直近のお盆商戦も、里帰りする人や旅行客の減少で厳しくなる。新型コロナウイルスの感染者数が急増し、新型コロナウイルスのワクチン接種の完了もまだ先になるため、景気はやや悪くなる。」(百貨店)、「新型コロナウイルスの感染再拡大が現実味を帯び、イベントやチラシ等積極的な販売施策が取りづらいため、景気の先行きは不透明である。来客数も毎月減少しており、今後、景気はやや悪くなる。」(スーパー)等の理由から、「やや悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を2.8ポイント下回る48.7となった。

企業動向関連は、「良くなる」の回答の割合が減少したものの、「悪くなる」の回答の割合も減少したため、前月と同ポイントの52.9となった。

雇用関連は、「やや良くなる」の回答の割合が減少し、「新型コロナウイルス禍で、雇用満了となった派遣社員の継続雇用をしない、アルバイトの仕事を社員で補うなどの対応で、人件費の削減に取り組む企業が出てきている。情報系の会社が、人を削減し、機械でできるシステムの開発の仕事を多く受注しているという話もあり、今後、景気はやや悪くなる。」(求人情報誌製作会社)等の理由から、「やや悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を7.4ポイント下回る52.9となった。

	7月	6月	前月差
合計	50.0	52.7	-2.7
家計動向関連	48.7	51.5	-2.8
企業動向関連	52.9	52.9	0.0
雇用関連 (参考値)	52.9	60.3	-7.4